

新建福岡・NOW

第7号 2013.10

発行元
新建築家技術者集団
福岡支部事務局
〒815-0041
福岡市南区野間 3-9-20-4F
[ケイ・プラッツ内]
Tel/Fax 092-541-8128
HP : shinken-fukuoka.net

8月例会「極暑期のエコハウス体感ツアー」

今年の暑さにはもってこいの企画、暑さまっただ中の8月3、4日に行われました。消費税UP前の忙しい時期。それでも集まっていた、矢野、沖本、鹿瀬島、月成、渋田+後から参加の片井計5名での体感ツアーとなりました。



▲エコウィンモデルハウス



▲水俣エコハウス

訪れたのは熊本市にある、輻射冷暖房をはじめスマートハウスの先端を走るエコウィンハウスと、皆様ご存じ古川保さんの水俣エコハウス。エコの考え方では両極をいく建物です。

以下三名の報告で、皆さんにも体感が少しでも伝われば幸いです。

極暑期にエコハウスを体感しよう！ということ

8月例会に参加いたしました。熊本市までは無事たどり着き、きれいで快適なモデルハウスにてみんなで夕飯を作りワイワイと食事をしながら、明日の水俣の、こことは違うエコハウスに対する期待と初めて訪れる土地に対する思いを膨らませていました。熊本市のエコウィンハウスは、地下や密閉された空間に向いています。静かで快適で閉じた空間、完全にコントロールされた人工的な空間のように感じました。オール電化です。一夜明け出発。

前日からの雨が激しくなり、水俣に近づくにつれ大荒れの天気で、高速道路では前も見えない土砂降りになりトンネルに入るとほっと一息つくような有様の中水俣市に着きました。エコハウスについて頃には雨もやみ、開け放しの水俣の家は風が吹き抜ける、木の香かおる気持ちの良い佇まいで、自然と共生するための様々な仕掛けが工夫された呼吸する家でした。二階まで吹き抜けの玄関の土間に設えられた薪ストーブで、冬は十分暖かだそうで、高床式の濡れ縁の下は薪がぎっしりストックされていました。階段の下に床下の空気を通すための開閉式の通風孔がつくられています。濡れ縁と居間の板張りの建て付けは内側から外に向って、障子・ガラス戸・格子戸・雨戸と4重に丁寧に美しく整えられていて感心しました。庭は、藤棚があり緩やかなカーブを描くアプローチの敷石まわりには、モミジやトクサなど日本家屋らしい佇まいで、裏庭に続く濡れ縁まへの通路には瓦が埋め込まれて玉ジャリ敷きになっており雨が降っても泥跳ねも無く快適に過せそうでした。裏庭には、家庭菜園・堆肥ヤード・雨水タンクなど循環式の庭造りが行われていました。

やはり、こうでなくてはね。住むんだったら絶対こちらだと確信しました。

エコハウス見学の後、昼食に「遠見のそば屋」へ行きました。海辺の静かな美味しいそば屋でした。昔、水俣は水のきれいな豊かな所であったに違いないと感じさせる懐かしい風情のある店。



▲水俣市エコハウス
4重の建具と室内。
裏庭の菜園と堆肥ヤード。



▲エコウィンハウスでの
手作りの夕食。



「遠見のそば屋」
サイドメニュー

水俣は水銀中毒の公害を被った場所として名前だけは知っていました。ずっと気になっていた場所でした。食事の後、水俣歴史資料館「相思社」を探していきましたが閉館していました。熊本県と水俣市が運営している水俣病資料館へ向いました。行政が運営している施設ですから資料として余り期待はしていませんでしたが、大事なことを学ぶ機会になりました。

水俣病資料館で出会った、緒方正人という人の言葉に深く共感しました。彼の著書「チッソは私であった」という想いがたどり着いた先にある、命の不思議さへの恐れと祈りに打たれました。敗戦の後、日本が直走った近代化の道筋で間違えた、今も間違え続けている道、足尾・水俣・福島と続く道をもうこれ以上進むのは止めたい。人が生き延びる道は自然との共生しか無いと心の底から思いました。今回の例会は大変意義深い貴重な体験でした。

*わが内なるチッソ(緒方正人著)

「チッソの責任、国家の責任と言いつける自分をふと省みて、「もし自分がチッソや行政の中にいたなら、やはり彼らと同じことをしていたのではないか」と問うてみる。すると、この問いを到底否定しえない自分があるわけです。それは自分の中にもチッソがいるということではないでしょうか。そこで結局俺は、水俣病事件の責任ということについてこう結論せざるをえない。この事件は人間の罪であり、その本質的責任は人間の存在にある。そしてこの責任が発生したのは、「人が人を人と思わなくなった時だ」、と。水俣病事件史が問うていたものは何かというと、つまるところ「自分」なんですね。」同書・167ページ。

(沖本)



心地よさを左右する要素には多くのものがあります。今回は、比較した当日の気候が違いすぎ（あんなに晴ればかり続いていたのに、二日目の水俣では大雨で乾ききった大地も建物も熱を下げてくれたのです。）、偏った評価になってしまいました。再度灼熱の水俣エコハウス体感したいものだと思います。

さてエコハウスを見学するにあたり、測定された温熱データはありませんかとお願いしてみました。

エコウィンハウスは太陽光発電、太陽熱温水器を使って22年5月～23年1月 9か月で17万円ほどの収入になったデータをいただきました。（あくまでも時折人が体感宿泊するモデルハウスですが）

水俣エコハウスでは当日お会いした古川さんから直接データを見せていただき、その日の環境に合わせて土間に打ち水をするなどして湿度調整することなど、建物の設えとその活用が必要なことをご説明いただきました。

高齢化が進む時代、ボタン一つでコントロールできることも一つの魅力ではありますが、住まいに愛情と知恵をかける姿勢は残してほしいものですね！

水俣を訪れる前に改めて「苦海浄土 我が水俣病」を読みました。若い時には途中で顔をそむけて、投げ出してしまった本でした。今は涙と怒りと、そして尊敬とで、一気に読み上げてしまいました。悲しいくらいに美しい水俣湾、未だ病と闘っていらっしゃる患者さんたちに平安が訪れるように心から祈った旅となりました。

(渋田)



輻射冷暖房＋高気密住宅、自然風＋土壁の家。企画の案内にあった通り、対照的な感じ方でした。前者では、湿度が低いとこんなにも体感温度が低く感じるとは。風が通りぬける家の後者では、風も体感温度の大きな要素であるということを実感しました。

体感温度の要素として頭にはありましたが、まさに「百聞は一見にしかず」でした。建物内の環境を考えるよい二日間となりました。（月成）

新建福岡 2013年度 定期総会のご案内

日時：10月23日(水)19時～

会場：アミカス2階 和室

(西鉄高宮駅すぐ)

みなさまのご出席お待ちしております